

vol.49-11 (通算 560号)

2020年2月号

やどかり

2020年2月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 土橋 敏孝

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)



50周年の節目に 共同創造の活動を前に進める

精神障害のある人を地域で支える制度がない時代(1970年)に、精神障害のある人の声に応じて活動をスタートしたやどかりの里は、50周年という大きな節目を迎えている。2019年度は、2つの研究助成金を得て、新たな取り組みが始まった。

1つは、大同生命厚生事業団による地域保健福祉研究助成「当事者との協働による地域精神保健活動におけるピアサポーター養成と定着のための研究」である。現在法人内でピアサポーターとして活動する3人のメンバーと3人の職員で研究チームを組織した。現在は法人内外のピアサポーターの実践から学びつつ、ピアサポーターの養成と定着に必要な要素を導き出そうと考えている。国内外には先駆的实践や研究もあり、それらも参考にしながらの研究事業である。

やどかりの里では、Co-production(共同創造)がベルギーでの精神医療改革の中核にあったことを学んだ。当事者が経験を生かし、研修・研鑽を重ね、ピアサポーターの活躍が当たり前になることが、日本の精神医療や保健福祉の改革に寄与すると考えている。そうしたビジョンを掲げながら、メンバーと職員の共同作業に取り組んでいる。その一環で、2月25日に浦和コミュニティセンターは「ピアサポートって何 病気の経験を生かして働く」(第35回体験発表会)を開催する。

もう1つは、ファイザープログラム「心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」の助成を受けて進める「見沼の文

化とSDGsを意識した共同創造のソーシャルファームづくりー1」(略称:未来を拓くつなぐ・つくるプロジェクト)である。障害の有無に関わらず、社会には8050問題や長期にわたる引きこもりの問題があり、解決の道筋が見えてこない。SDGs(国連で定めた持続可能な開発目標)では、解決困難な社会問題は、他領域の人たちが協議していくことで解決に向けて動き出すとしている。今回のプロジェクトでは、精神保健福祉領域にとどまらず、他領域の人たちの参加を得、制度の谷間にある人たちの実態やニーズを把握していく。それらのニーズに応えるために「共同創造のソーシャルファーム」の必要性を仮説として掲げた。ソーシャルファームは、日本では法制化されていないが、イタリアをはじめとしたEU諸国や隣国韓国でも広がっている。障害のある人だけではなく、働くことや生活上の困難を抱える人たちが働く場でもある。国内でも先駆的取り組みが紹介されており、数か所の視察を行いながら、見沼の文化を生かしつつ困難を抱えつつも生きられる場づくりについて構想をまとめていく。

2006年に成立した障害者自立支援法(現在の障害者総合支援法)では、障害のある人の幅広いニーズに応えきれないこともわかってきた。制度ありきの活動づくりではなく、切実なニーズに応じていくのがやどかりの里の原点である。さまざまな人たちの声を聴きつつ、メンバー、家族との共同創造による活動づくりを本格的に進めていきたい。